



鹿児島大学教育学部

同窓会会報

特集号

平成26年5月30日

発行

鹿児島大学教育学部
同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
電話099-285-7718

編集・印刷

濱島印刷(株)

教育学部「沿革之碑」の建立 厳かに除幕式

鹿児島大学への寄贈
沿革之碑建立を祝して挨拶

教育学部同窓会長

池之迫 静男

皆様こんにちは、やっと春となり桜の花がほころび始めました。

皆様には、年度末のご多忙なこの時に、沿革之碑の除幕式に、多数ご参加していただき、誠にありがとうございます。厚く感謝申し上げます。

ただ今、目前で黒御影石に、母校の校名が刻まれた沿革之碑の除幕を、厳かに執り行うことが出来ました。これは同窓会創立15周年記念として、画期的で、意義ある事業であることを確信して、皆様と共に喜びをいたします。



ここに鹿児島大学教育学部

沿革之碑が竣工できましたことは偏に、教育学部、ことに武隈学部長先生のご助言とご協力、また同窓会の皆様のご支援、ご協力によるものであり、さらに、建立の事業を成し遂げていただきました前迫石材株式会社様のおかげでありますことを深く感謝申し上げます。

沿革之碑の建立の意義については、これまで幾たびも申し上げてきたとおり、第一に、教育学部の原点は、明治8年(1875年)の小学校授業講習所、小学正則講習所に始まり、鹿児島県で、最も古い学校制度のはじまりであり、

以来今日まで139年の間、28の校名が示すとおり、改称、閉校、開校、合併、分離、設置、廃止の紆余曲折の歩みをとらえながら、わが国が明治以後、近代国家の樹立をめざして教育制度の発展充実に努めた実像を碑文からとらえることが出来る。

次にまた、この沿革之碑を通して、これまで多くの同窓生が、学校教育を中核として南九州をはじめ、郷土鹿児島県の教育的、文化的な風土づくり、とくに初等教育を通して、豊かな土壌づくりにより県民性の涵養に貢献してきていたことを理解するよすがとして

もらいたい。

第三に、多くの同窓生(旧制師範学校生約1万4千名、青年師範学校生約2千名、教育学部生約2万1千名)の総計同窓生約3万7千余名の多くが「教えの庭」に立ち、児童、生徒の教育に情熱を燃やした若き日々を回顧し、また遠き日の「学びの友」との絆を深めるとともに、母校教育学部の大いなる発展を願う手がかりとす。

沿革之碑の頭に、「絆」の文字を置きました。教育学部の同窓生が強く大きなひも、綱によって、いついつまでも結ばれていくことを祈念しています。

絆といえ、教育学部附属幼稚園の前身に、「鹿児島県尋常師範学校友ノ碑」が同窓生によって、今から122年前、すなわち明治25年(1892年)の3月27日、今日と同じ日の建立が明記されていることを、先日確認して何か、えにしと言っか、「絆」というものを考えて心が躍りました。

終わりに、沿革之碑を通して、在学生の皆さんが、教育学部の沿革に対する思いを深くして、有意義な学生生活を送ってくれることを、期待して沿革之碑除幕式の挨拶をいたします。

絆 鹿児島大学教育学部沿革之碑

歴史をたどり 刻み込まれた

「沿革」の碑文

明治	八年一八七五	小学校授業講習所設置
		小学正則講習所設置
明治	九年一八七六	鹿児島師範学校 授業講習所改称
		鹿児島女子師範学校 正則講習所改称
明治	十年一八七七	鹿児島女子師範学校 西南戦争勃発により
		鹿児島師範学校開校
明治	十一年一八七八	鹿児島女子師範学校開校
明治	十三年一八八〇	鹿児島師範学校 鹿児島女師合併改称
明治	二十年一八八七	鹿児島県尋常師範学校 改称
明治	三十一年一八九八	鹿児島師範学校 改称
明治	四十三年一九一〇	鹿児島県女子師範学校 鹿児島分離設置
大正	九年一九二〇	鹿児島県第一師範学校 鹿児島改称
		鹿児島県第二師範学校設置
大正	十三年一九二四	県立実業補習学校教員養成所設置
昭和	九年一九三四	鹿児島県師範学校 第一第二師範合併改称
昭和	十年一九三五	県立青年学校教員養成所 実補教養所改称
昭和	十八年一九四三	鹿児島師範学校 鹿児島県女師合併国立移管
		鹿児島師範学校予科設置
昭和	十九年一九四四	鹿児島青年師範学校 国立移管
昭和	二十四年一九四九	国立鹿児島大学教育学部設置
		鹿児島大学鹿児島師範学校・予科 改称
		鹿児島大学鹿児島青年師範学校 改称
昭和	二十六年一九五一	鹿児島大学鹿児島師範学校・予科廃止
		鹿児島大学鹿児島青年師範学校廃止
昭和	三十四年一九五九	鹿児島大学専攻科教育専攻科設置
平成	六年一九九四	鹿児島大学大学院教育学研究科設置
		鹿児島大学専攻科教育専攻科廃止
平成	十六年二〇〇四	国立大学法人鹿児島大学教育学部 改称

鹿児島大学教育学部同窓会創立十五周年記念
平成二十六年三月吉日 建立

沿革之碑 建立までの歩み

- 平成25年8月4日 第16回総会(沿革之碑石建立承認)
- 平成25年9月26日 建立検討委員会(建立企画構想審議)
- 平成25年10月18日 第1回建立実行委員会(具体策の審議)
- 平成25年11月7日 教育学部長への「沿革之碑寄贈」申し入れ
- 平成25年12月20日 教授会の審議を経て学部長より回答
- ※寄付は了承・設置場所の変更要請
- 平成25年12月26日 教育学部長より回答への対応策協議
- 平成26年1月8日 教育学部長へ当初の設置場所を相談
- 平成26年1月15日 第2回実行委員会(設置場所の見直し審議)
- 平成26年2月4日 第3回実行委員会(最終設置場所・沿革刻印文字の検討)
- 平成26年2月12日 教育学部長へ新たな設置場所案提出・施工業者決定
- 平成26年2月21日 教育学部より最終建立設置の了解
- 平成26年2月26日 前迫石材株式会社へ施工依頼
- 平成26年2月28日 鹿児島大学本部より寄付受け入れ承認
- 平成26年3月11日 鹿児島大学学長正式に不動産寄付受領
- 平成26年3月17日 建立設置場所基礎工事
- 平成26年3月24日 沿革之碑本体の建付(完工)
- 平成26年3月27日 除幕式典(出席者36名・南日本新聞社取材)

祝辞

本学教育学部沿革之碑 竣成を祝して

鹿児島大学教育学部長 武隈 晃

鹿児島大学教育学部沿革之碑 竣成・除幕式典にあたり一言ご挨拶申し上げます。教育学部長武隈です。

この度の鹿児島大学教育学部同窓会設立15周年記念事業教育学部沿革之碑竣成を心よりお慶び申し上げますとともに、今後の沿革之碑建立により、ここに集う同窓生・在学生に広く、この学舎の系譜を知らしめていただけるようになりましたことに深い感謝の意を表します。

明治8年、1875年の「小学校授業講習所」設置に起源する本学部の歴史をこの沿革

之碑により辿れば、139年に及ぶ歴史の中で、時に穏やかに、時に激しく、その態様を変えてきたことを思い知らされます。この間、師範学校や新制教育学部が輩出した有為の人材は実に3万5千人に及ぼうとしています。

この重い史実に触れ、改めてここに集い、学んだ同窓生の御霊(みたま)と言霊(ことだま)に触れることが出来るように思われます。同時にそれは多くの同窓生をここにお送りいただき、また支えていただいた多くの方々、保護者ご家族の皆様、旧制中学校

祝詞(メッセージ)

思いを馳せる碑として

教育学部同窓会名誉会長 松元 兼俊

今日はほんとうに嬉しい日であります。長年、こんな碑が建てられたらと願っていました。池之迫会長はじめ同窓会の有志が集い、遂にこの志を達成されました。心からお祝いをいたします。

これには、鹿児島大学教育学部当局のご理解とご協力があつてのこと、重ねて御礼を申し上げます。

教育学部の沿革史の碑に「絆」の文字が刻まれています。「きずな」と読みます。親子・人間同士の結びの強さを大切にする時に用いられています。

また河合隼雄さんの「参照(老いの道)」では、言っておられます。
・平安時代では「ほだし」と読まれ、馬の脚にからませて歩けないようにする綱を意味しているという。
・青年期に自立しようとするとき、親子関係など「ほだし」として意識されるのではないかと、そこには人間関係の面白さがあるとも言える。強い「きずな」の存在を前提として、それを「ほだし」と感じて青年は努力する。
・その逆説のバランスが一人前の成人が誕生してくると言

や新制高等学校関係者の皆様、附属学校園や地域教育関係者の方々をはじめとする皆々様のご尽力の賜と存じております。本日のこのめでたき竣成・除幕式典にあたり改めてまじり敬意と、また深い感謝の意を表したく存じます。

また、改めて同窓生の皆様の母校となる鹿児島大学教育学部の発展を念ずるとともに、本日ご臨席の皆様様に厚く感謝申し上げます。ご挨拶と致します。



喜怒哀楽はいろいろ。それ乗り越えて、一生懸命生きていきたい。
とは、森繁久弥さんの言葉。彼が孤独に耐えながら生き続けたと言っていたことを思い出します。

沿革史は、その時代に「教育」を一生懸命支えて来た人たちに、思いを馳せる碑として大事にしていきたいものと思っております。
今日のお目出度い日に、ひとこと お祝いの言葉に代えさせて頂きます。

沿革之碑 除幕式典

式次第

- ・一同礼
- ・開式の言葉
- ・除幕
- ・同窓会長挨拶
- ・経過報告
- ・祝辞
- ・教育学部長
- ・師範学校卒代表
- ・学生代表
- ・感謝状贈呈
- ・閉式の言葉
- ・一同礼

沿革之碑建立実行委員会 実行委員メンバー(敬称略)

- 委員長 池之迫 静男 (同窓会長)
- 副委員長 石神 正明 (同窓会副会長)
- 委員 松元 兼俊 (同窓会名誉会長)
- 島田 俊秀 (同窓会顧問)
- 坂尾 隆 (同窓会顧問)
- 中山 右尚 (同窓会顧問)
- 中山 トミ (鹿女子師範代表)
- 野間口 精 (鹿師範代表)
- 牧田 良裕 (鹿青年師範代表)
- 百枝 盛男 (鹿師範豫科代表)
- 榎添 利光 (同窓会広報部長)
- 鮫島 寛行 (同窓会総務部長)
- 今林 俊一 (同窓会理事代表)
- 北原 稔 (同窓会幹事)
- 竹之内 則好 (同窓会幹事)
- 月足 恵 (学生代表)

各代表より 除幕式式典に臨んで

鹿児島女子師範学校

(S・25卒)
床次 つや子

私達は、昭和22年鹿児島師範学校女子部に入學、当時教場は吾平町にあったが、殆どの人が寮生活でした。寮は、旧海軍通信兵宿舎のトタン屋根で、近くに墓地があり、夜などとても心細かったと記憶しています。

食事野草入りの雑炊で、学校からの帰路、食材の川芹等を摘む事も度々でした。その年鹿児島市へ移転、伊敷の旧兵舎跡で男女共学が始まりました。

夏休みには、母校復興資金集めがあり、私は、ローソクや石鹸日用品を売り歩いたり、夏祭りに先輩と夜店を出すなど、今では考えられない様な懐かしい貴重な体験でした。

この度の沿革之碑建立で、母校の歴史を知る事が出来て本当に有難く、次の世代の方が高理想と若い感性で、新しい風を起こしてくださる事を願っています。

鹿児島青年師範学校

(S・24卒)
牧田 良裕

以後、師範学校、女子師範学校、青年師範学校など、校名が28回も改称されましたが、昭和24年、鹿児島大学教育学部設置に伴い、昭和26年に教育学部に統合されました。これまでの同窓生は、約3万7千人になるとのことです。

沿革之碑の前に立ちますと、幾多の同窓生が郷土鹿児島島の教育の充実発展のため、貢献してこられたことがうかがわれます。当時の「学びの友」との絆を深めたいものです。鹿児島大学教育学部の発展を祈念します。

教育学部 技術専修4年

月足 恵

この度は教育学部沿革之碑建立おめでとうございます。学生代表として除幕式に出席させていただきます。とても光栄に思っております。

現在、学び舎である鹿児島大学教育学部の歴史を知っている学生は少ないと思っております。この教育学部の沿革之碑建立により、自分の学び舎の歴史を知る場所ができたことは、学生にとっても喜ぶべきことです。

さらに一般の方や在学中の学生のみならず、来年から入学する学生たちにも歴史が伝わっていくこととなります。これは教育学部の歴史を伝えるために重要なことであるといえます。

編集後記

気象庁は2日、九州南部は昨年より6日遅い梅雨入りを発表した。鹿児島大学のキャンパスでも、あちこちで色鮮やかなアジサイが咲き誇っている。以前、会合で北海道に出向いたとき、8月の函館は丁度、アジサイの時節であった。

北海道は6月に入り、中国大陸からの暖気の流れを受けて厳しい暑さに見舞われているという。全国的に、熱中症の症状で救急搬送される人も多い。蒸し暑いこの時期、体調管理には十分に気を付けてい。

鹿児島大学教育学部内の建屋で50年程前に建築され、唯一姿を残していた第2講義棟は、今、解体作業が行われている。新たに学習交流プラザも兼ねるような瀟洒な建築物が実現するらしい。卒業後、社会教育分野に進む学生も多いとのことで、新取の精神を具現化する最適な環境となるものと期待している。

この度、建立となった「沿革之碑」は、管理棟西側に座しており、会員の訪れを待っている。
(北原)